

【目的】高齢者の疾病・事故などでは、脳卒中や転倒による骨折が多く、これらの発生原因としては、わが国の住宅構造や住まい方も影響している。特に農村地域においては伝統的な間取りの研究等が多いが、これまで高齢者の居住環境に対する対策について講じられる事は少なく、過疎が進んだ農村地域で健康な生活を営むための環境整備は急務である。

【方法】訪問調査を行って、住宅の見取り図を作成、段差・動線などの測定をするとともに、住宅の改造・改善についての聞き取り調査を行った。また、先だって高齢者の健康状態や居住環境設備などについての質問紙調査を行った。茨城県里美村の住宅20軒についてのデータを得た。

【結果】住宅が都市部よりも比較的大きく、平面計画上の問題によって居室からトイレや風呂への動線は長くなりがちで、段差も多い等の住宅構造上の問題があった。また、外トイレ・風呂の住宅も半数近くあった。住宅改造は築年数が古いものが多いので度々行われてはいるが、高齢者向けの改善は少なく、今後の改善希望は多かった。また、障害を持った高齢者については、改善しようにも建具による間仕切が多く壁が少ないので手すりがつけられないといった問題点も挙げられた。トイレの寒さなど熱環境に対する問題は認識されているが、暖房器具の設置などの対応をしている住宅は非常に少なかった。